

心理検査法実習Ⅰ

専門教育科目／1単位／S授業

担当教員 前田 直樹

■使用テキスト *担当教員によるレジュメ等

◆参考テキスト 講義内で紹介

講義概要・一般目標

心理検査には様々な種類が存在し、検査によってそのやり方が大きく異なります。心理検査は質問紙法、投影法、作業検査法、知能検査などに分けられます。この心理検査法実習Ⅰでは、質問紙法を中心とした様々な心理検査の基礎的な知識と技術の取得を目指します。具体的な講義内容については下記の通りです。

1. 心理検査とは文字通り人の心を測定するために使われるツールです。具体的な内容に入る前に、心理検査の基礎的な概要を学習します。ここでは心理検査の理論的・歴史的背景やその必要性などについて具体的な解説を行います。
2. 心理検査には様々な種類が存在します。その中でも質問紙法と投影法は同じ心理検査とは思えないほどに内容が大きく異なります。具体的に質問紙法と投影法ではどのように異なるのか。その理論的背景や技法について学習します。
3. 実際の質問紙法の進め方について学習します。同じ質問紙法でも種類によって進め方や採点方法が異なります。この実習では、臨床現場において使用頻度の高い質問紙法を用いて実際に受講者が検査を受け、その後検査者となって検査法の技術を学習します。また、心理検査法の進め方を学ぶだけでなく、被検査者に対する心理的負担を考慮した環境調節や面接技法も学習します。

この講義で学習する心理検査法の基本的な内容は、さらに高度な内容になる心理検査法実習Ⅱの基礎になります。

- (D1) 福祉を担う人材として、社会的に課題を抱えた地域・人々に対して貢献することができる。
- (D3) 地域社会や支援対象者に対して、社会福祉の知識、技術を駆使し、課題の発見から解決を導き出していくことができる。
- (D6) 社会や福祉の現場の課題を的確に把握し、情報を集め分析し、考察することができる。

到達目標

- 1) 心理アセスメントに用いられる質問紙法の背景について理解する。
- 2) 質問紙法の種類及びその内容について理解する。
- 3) 臨床現場で利用されている質問紙法を実際に体験する。
- 4) 質問紙法の採点方法を身に付け結果を分析する。
- 5) 質問紙法の分析結果を基にレポートを作成する。

評価方法

出席状況（遅刻・欠席は不可）、受講態度、科目単位認定試験（スクーリング最終日に実施）。